

授業科目	授業番号： 1		担当者	小林朋子 ガルシア・アロヨ・ホルヘ 土肥克己	
	文学の世界		授業外対応	講義終了時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？ この授業では、3人の教員がアメリカ、スペイン、中国の3か国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (プリント資料配付) (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 17世紀アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード</p> <p>第 2回 18世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』</p> <p>第 3回 19世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス</p> <p>第 4回 20世紀アメリカ文学：人種系文学</p> <p>第 5回 20世紀アメリカ文学とその後：自己の探求</p> <p>第 6回 イタリアの影響：スペイン・ルネサンス文学（15世紀末～16世紀）</p> <p>第 7回 セルバンテスとバロック黄金時代の文学</p> <p>第 8回 19世紀の前半：スペインのロマン主義（1833-1844）。19世紀の後半：スペインの写実主義の文学</p> <p>第 9回 20世紀の前半 I：98年世代・スペインのモダニズム文学</p> <p>第 10回 20世紀の前半 II：27年世代・スペインの「Tremendismo」文学。20世紀の後半と21世紀のスペイン文学</p> <p>第 11回 中国の文学：三国志の魅力（1）</p> <p>第 12回 中国の文学：三国志の魅力（2）</p> <p>第 13回 中国の文学：三国志の魅力（3）</p> <p>第 14回 中国の文学：三国志の魅力（4）</p> <p>第 15回 中国の文学：日本での三国志</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。(事前でも事後でも可)				
成績評価の方法	期末レポートの提出(70点)、および講義に関する毎回の意見・感想等(30点)で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。				
実務経験について	なし				

(注) 文学科を除く。

(注) 受講者が60人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	授業番号： 2			担当者	梶尾 達哉
	日本の歴史			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本史の学説・史料を読み解く</p> <p>【概要】かつて日本国家成立論に大きなインパクトを与えた騎馬民族征服説、世紀の発見と言われた稲荷山古墳出土鉄剣銘文、さらに平城宮跡出土の墨書土器、中世の絵巻、古文書など、重要な学説・史料をわかりやすく紹介し、日本史についての新しい知見を提供する。</p> <p>【到達目標】歴史学の基本的な方法を習得すること。具体的には、史料を客観的に読み解いて、歴史の真実を追究してゆくことを学ぶ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 騎馬民族征服説 第 2回 騎馬民族征服説 2 第 3回 騎馬民族征服説 3 第 4回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 1 第 5回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 2 第 6回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 3 第 7回 墨書土器（古代の罪と罰） 1 第 8回 墨書土器（古代の罪と罰） 2 第 9回 墨書土器（古代の罪と罰） 3 第 10回 中世の絵巻から 1 第 11回 中世の絵巻から 2 第 12回 中世の絵巻から 3 第 13回 古文書を読む 1 第 14回 古文書を読む 2 第 15回 古文書を読む 3				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 3		担当者	安部 幸志	
	こころの科学		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学について理解し、その方法論や知見の応用について知識を深める。思春期・青年期の心理や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。これを通じて、対人コミュニケーション能力を培うことも期待される。</p> <p>【到達目標】①現代におけるこころの問題を理解するために、科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防に関する知識を身につける</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回4, 5人程度で構成されたグループワークを実施する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎事プリントによる資料を配布する。 (2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版補訂版』東京大学出版会, 2020年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門—心理学はこんなに面白い 改訂版』有斐閣, 2019年				
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 心理学とは：科学としての心理学 第 3回 こころの進化：動物にもこころはあるか 第 4回 こころの発達：赤ちゃんの心理 第 5回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理 第 6回 こころの発達：中年期と女性の心理 第 7回 こころの発達：老年期の心理 第 8回 性格：血液型と認知バイアス 第 9回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か 感覚・知覚 第 10回 感覚・知覚 第 11回 記憶の不思議 第 12回 災害と心理 第 13回 社会と心理 第 14回 心理療法 第 15回 ストレス				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 4			担当者	北 一浩
	芸術論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】 芸術の中でも難解といわれる 20 世紀以降の現代アート（造形芸術）を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【到達目標】 さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	講義毎に取り扱う作品に対する質問への回答、感想の記述を行い、講義中にフィードバックを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 現代アートとは？：西洋美術史、現代アート、ルネサンス</p> <p>第 3 回 伝統と違うから興味ない？：アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像</p> <p>第 4 回 美しいとは思えないのだけれど？：パブロ・ピカソ、アビニヨンの娘たち</p> <p>第 5 回 何が描いてあるかわからない：ワシリー・カンディンスキー、コンポジションⅣ</p> <p>第 6 回 上手だとは思えないのだけれど？：キルヒナー、ストリートシーンベルリン</p> <p>第 7 回 これがアートといえるの？：マルセル・デュシャン、泉</p> <p>第 8 回 そんなに値打ちがあるものなの？：ピエト・モンドリアン、コンポジションⅢ</p> <p>第 9 回 わかったような、わからないような：ルネ・マグリット、光の帝国</p> <p>第 10 回 何なのか、意味がわからない：マーク・ロスコ、無題</p> <p>第 11 回 アートとアートでないものの違いって？：アンディー・ウォーホル、ブリロボックス</p> <p>第 12 回 許せる？許せない？：リチャード・セラ、傾いた狐</p> <p>第 13 回 きれいなのに汚い？：アンドレス。セラノ、ピス・クライスト</p> <p>第 14 回 名作はあなたが見つかるもの</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	毎講義中のミニレポート（60%） 講義内で行うワーク（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

授業科目	授業番号： 5		担当者	田口 康明	
	日本国憲法		授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的人権を中心とした日本国憲法に理解。</p> <p>【概要】 教員、公務員、会社員その他の職業に就くにせよ社会制度の多くは法によって定められている。その根本はいうまでもなく憲法である。どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、人権を主にとりあげそれらの歴史的、社会的背景をもとりあげることとする。</p> <p>【到達目標】 憲法が存在する意義について理解できる。</p> <p>日本国憲法の構造（人権）について理解できる。</p> <p>現実の問題について自分なりの見解をまとめることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に定めない</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2 回 憲法とは何か 立憲主義を考える。</p> <p>第 3 回 日本国憲法の誕生 憲法の制定過程について学ぶ。</p> <p>第 4 回 国民主権と象徴天皇制 国民主権の意義や象徴天皇制を考える。</p> <p>第 5 回 憲法 9 条と平和主義（その 1） 憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。</p> <p>第 6 回 憲法 9 条と平和主義（その 2） 憲法 9 条をめぐる裁判等を検討する。</p> <p>第 7 回 基本的人権（基本的人権とは） 憲法で基本的人権が保障されている意義を考える。</p> <p>第 8 回 基本的人権（基本的人権の種類と人権保障の限界） 自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。</p> <p>第 9 回 基本的人権（包括的基本権） 憲法 13 条の幸福追求権について考える。</p> <p>第 10 回 基本的人権（自由権 その 1） 内面の自由について考える。</p> <p>第 11 回 基本的人権（自由権 その 2） 人身の自由と経済的自由権について考える。</p> <p>第 12 回 基本的人権（社会権 その 1） 生存権について考える。</p> <p>第 13 回 基本的人権（社会権 その 2） 教育を受ける権利、勤労の権利について考える。</p> <p>第 14 回 基本的人権（参政権）、国民の義務 選挙権などの参政権と、国民の義務について考える。</p> <p>第 15 回 これまでのまとめと補足</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	原則、最終試験（公務員試験レベルの択一問題）によって評価するが、小レポートを課した場合、それも評価に加える。評価割合は、授業内にて示す。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 6		担当者	藤野 博行	
	法学		授業外対応	基本的にいつでも対応します。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】法の基本を学び、論理的思考力を身につけるための基礎力を涵養します。</p> <p>【概要】法学は「常識と正しいバランス感覚をふまえて、論理的に物事を考えて課題解決する力」を身につけるための学問です。そこで本科目では、身の回りで起こりうる課題について、解決に必要な法的知識を学んだのち、皆さんの「常識」と「バランス感覚」を頼りにグループで考えることにより、社会に出た時に必要な「課題解決力」の基礎を身につけます。</p> <p>【到達目標】①法学に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2~4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 伊藤真『法学入門』日本評論社 (2022年) 1760円 ISBN-13:978-4535527157</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ①ガイダンス (講義内容・受講上の注意事項等), ②アイスブレイク</p> <p>第 2 回 法の特徴とその役割について。</p> <p>第 3 回 ①法の種類, ②法の階層構造, ③ (演習) ルールを決める最良の方法は?</p> <p>第 4 回 ①裁判で用いられる証拠の種類, ② (演習) 様々な証拠から事実の存在を推測する。</p> <p>第 5 回 ①法解釈 (文理解釈と目的論的解釈) ② (演習) 実際に法律を解釈する。</p> <p>第 6 回 ②法解釈 (演習) 日常生活での困りごとを「法解釈」で解決する</p> <p>第 7 回 ①前半の復習, ②中間テスト</p> <p>第 8 回 中間テストの解説と講評</p> <p>第 9 回 ①契約とはなにか?, ②契約が成立すると発生する効果とは?</p> <p>第 10 回 (演習) 自分たちの身に起こるかもしれない課題の解決策を考える。</p> <p>第 11 回 (演習) 身近に起こりうる課題の解決法について考える</p> <p>第 12 回 (演習) 実践的な法解釈にチャレンジする (公園のベビーカー進入)。</p> <p>第 13 回 (演習) 実践的な課題解決にチャレンジする (公園のお祭りのルールを作る)</p> <p>第 14 回 (演習) 実践的な課題解決にチャレンジする</p> <p>第 15 回 後半の復習とまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点), 期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 7			担当者	中嶋 晋平
	社会学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学の基本的な考え方を理解するとともに、社会の視点から現代社会を理解する。</p> <p>【概要】社会学は、私たちにとって当たり前の存在である「社会」を冠した学問である。複雑さを増す現代社会の解決に社会学が貢献できる余地は多い。ところが日本では、大学・短大などの高等教育機関以外で社会学を学ぶ機会がないため、どのような学問であるかを理解している者は少ない。本講義では社会学の基本的な考え方やものの見方を学ぶとともに、社会学の視点から現代社会が抱える課題をとらえ直す能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】社会学とはどのような学問か、その基本的な考え方を理解する。社会学の視点を通して現代社会の課題を理解する力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 間淵領吾・酒井千絵・古川誠編 (2022)『基礎社会学 新訂第5版』世界思想社 配布資料はwebで公開</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 社会学の歴史①</p> <p>第3回 社会学の歴史②</p> <p>第4回 社会学の発想</p> <p>第5回 社会調査とデータ</p> <p>第6回 社会学の基本概念①</p> <p>第7回 社会学の基本概念②</p> <p>第8回 都市という空間①</p> <p>第9回 都市という空間②</p> <p>第10回 社会と環境①</p> <p>第11回 社会と環境②</p> <p>第12回 社会の病理</p> <p>第13回 学歴と社会</p> <p>第14回 差別と社会①</p> <p>第15回 差別と社会②</p>				
授業外学習 (予習・復習)	振り返り小テストに備えて、教科書・配布資料を読み返し復習すること				
成績評価の方法	毎回の振り返り小テスト (100%)				
実務経験について	なし				

資料配布、振り返り小テストは「Google classroom」で行います。大学のアカウントでのログインが必要になります。

授業科目	授業番号： 8			担当者	山口 祐司
	生活と経済			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活に関わる身近な観点（生産と消費，賃金と労働，税と社会保障）を手がかりに，経済の見方を学んでいきます。</p> <p>【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか（第2～3回）。消費者としての視点から，モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ（第4～6回）。労働者としての視点から，賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ（第7～10回）。市民としての視点から，税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ（第11～14回）。</p> <p>【到達目標】身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして，社会的役割，個人の権利，日本の実態について知識を身につけること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>毎回授業の最後に，その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて，翌週解説します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 人間社会と経済の発展 第3回 戦後日本の経済発展と現在 第4回 生産と消費（1）ものづくりと消費の多様化 第5回 生産と消費（2）サービス 第6回 生産と消費（3）社会的存在としての企業 第7回 中間まとめ 第8回 労働と賃金（1）働くということ 第9回 労働と賃金（2）働きすぎの日本社会 第10回 労働と賃金（3）雇用と貧困の問題 第11回 税と社会保障（1）政府の役割 第12回 税と社会保障（2）財政と税の仕組み 第13回 税と社会保障（3）少子高齢化と財政問題の深刻化 第14回 税と社会保障（4）財政と税の行方 第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。</p>				
成績評価の方法	<p>レポート（60%），毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）</p>				
実務経験について	<p>なし。</p>				

授業科目	授業番号： 9			担当者	担当教員
	キャリアデザイン			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	通年	1単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動が始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	適宜紹介				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆5月14日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア, キャリアデザインとは ◆6月11日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月9日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方 ◆9月17日(木) 3限 第4回 企業が求める人材 1 ◆9月17日(木) 4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月15日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月6日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回 ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出(100%)</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 10			担当者	愛甲 正
	数学の世界			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学および高校数学を楽しむ</p> <p>【概要】 中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がいかに活用されているかを知り、数学を楽しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	授業中に、指名して適宜質問を行い、双方向の議論を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 講義中に適宜紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス (概要説明)</p> <p>第 2 回 実数・有理数・無理数</p> <p>第 3 回 白銀比とコピー用紙・黄金比</p> <p>第 4 回 確率 (くじ引きの順番)</p> <p>第 5 回 指数と対数 (利息計算への応用)</p> <p>第 6 回 指数と対数の計算 (電卓の利用)</p> <p>第 7 回 データの最頻値・中央値・平均値・箱髷図</p> <p>第 8 回 データの分散・標準偏差・偏差値</p> <p>第 9 回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理</p> <p>第 10 回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量</p> <p>第 11 回 数列 (等差数列・等比数列)</p> <p>第 12 回 数列の和の極限 (曲線の囲む図形の面積の例)</p> <p>第 13 回 弧度法と円の面積</p> <p>第 14 回 非ユークリッド幾何の紹介</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に適宜指示する				
成績評価の方法	レポート (100%) による				
実務経験について	高等学校にてσ数学教諭として6年間勤務				

授業科目	授業番号： 11			担当者	藤井 伸平
	物理の世界			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみる。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。</p> <p>【到達目標】身近に起こる自然現象を物理という視点から眺めることができるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回中、数回程度簡単な実験をおこないます。また、講義中は何回もの問いかけ（質疑応答）を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布 (2) 適宜提示				
授業スケジュール	第 1回 講義の概要 第 2回 地球は丸い（オンデマンド予定） 第 3回 基本的な量について 第 4回 大気圧について 第 5回 地球・月・太陽の大きさと距離（オンデマンド予定） 第 6回 釣り合いとてこの原理について 第 7回 摩擦と慣性について 第 8回 音の世界 その1（オンデマンド予定） 第 9回 ロケットについて 第 10回 音の世界 その2（オンデマンド予定） 第 11回 ガリレオ温度計について 第 12回 身のまわりの放射線 その1（オンデマンド予定） 第 13回 気化熱について 第 14回 身のまわりの放射線 その2（オンデマンド予定） 第 15回 電気について				
授業外学習 (予習・復習)	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を調査収集し理解を深める。				
成績評価の方法	(A) 授業ごとの小レポート (30%)、(B) 課題レポート (40%)、(C) 期末試験 (30%)。(詳細については第1回目の講義で説明します。)				
実務経験について	なし				

(1) 受講生が60人を超えた場合は人数を制限します。

(2) 理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。

(3) ”オンデマンド”対応のため講義のつながりがすこし悪くなっていますがご了承ください。

授業科目	授業番号： 12			担当者	塔筋 弘章
	生物の科学			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化、生態系</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製（増殖）・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化、生態系などについて学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する</p>				
学生の主体的・対話的な学び	授業中に小テストを行い、後日、その内容について解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (pdfファイル等にて配付する) (2) 適宜指示				
授業 スケジュール	第 1回 生命の機能単位：細胞 第 2回 生命の歴史：単細胞から多細胞へ 第 3回 代謝：エネルギー産生のしくみ 第 4回 遺伝の法則：メンデルの法則 第 5回 DNA：遺伝におけるその役割 第 6回 遺伝子の変異、変異原 第 7回 発生における遺伝子発現 第 8回 分子生物学：クローン・iPS細胞 第 9回 進化論：ラマルクとダーウィン 第 10回 種分化 第 11回 生物の進化 (1)：動物の進化 第 12回 生物の進化 (2)：恐竜から鳥へ 第 13回 生物の進化 (3)：猿人からヒトへ 第 14回 環境と生物 第 15回 生物種間の相互作用				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト (40%)				
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師				

授業科目	授業番号： 13			担当者	古川 那由太・木下 朋美
	化学の世界			授業外対応	オフィスアワーを参照
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりからの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。1～6回：古川、7～15回：木下</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探究し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して解説を行います。8～15回の授業では、授業内容の理解を深めるため、お茶の試飲や飲み比べなどを実施します。13回・15回目は実習室でグループに分かれて試飲などの実習を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 気体の化学（元素と原子、大気の成分、気体の密度）</p> <p>第2回 生活の化学（酸と塩基、洗剤と漂白剤、プラスチック、容器の素材）</p> <p>第3回 爆発の化学（化学反応、火薬による爆発、火薬以外の爆発）</p> <p>第4回 エネルギーの化学（化石燃料と火力発電、原子力発電と核融合炉、次世代エネルギー）</p> <p>第5回 生物の化学（生体物質の分類、糖質、たんぱく質とアミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル）</p> <p>第6回 話題の化学（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人）</p> <p>第7回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶</p> <p>第8回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法－カテキン等の茶成分への影響（1）</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法－カテキン等の茶成分への影響（2）</p> <p>第10回 緑茶に付加価値をつける 仕上げ加工（ブレンド・火入れ）-アミノカルボニル反応</p> <p>第11回 味をも作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体</p> <p>第12回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（急須とドリンク茶）-茶成分の品質への影響</p> <p>第13回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（実習）</p> <p>第14回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール、香気成分等</p> <p>第15回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分（実習）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視する。				
成績評価の方法	古川担当分（40%）：授業ごとのレポート 木下担当分（60%）：レポート				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 14			担当者	牛山紗稀子・中島一喜・木下朋美・古川那由太
	食生活と健康			授業外対応	担当ごとに適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどのようにしたらよいのか</p> <p>【概要】バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報は少なくない。本講義では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたよいかについて、各種の活動を取り入れて実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを学ぶ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	授業の最後に小テストや感想・質問を記入してもらい、解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1回 健康とは何か？ (牛山) 第 2回 食品ごとの調理特性 (木下) 第 3回 鹿児島食文化 (木下) 第 4回 口内環境正常化 (古川) 第 5回 味覚を変える食品 (古川) 第 6回 食品加工と保蔵 (中島) 第 7回 食品の機能性 (中島) 第 8回 保健機能食品 (中島) 第 9回 食品に含まれる栄養素とその働き (牛山) 第 10回 食生活チェック (食品の選択) (牛山) 第 11回 ダイエット (牛山) 第 12回 生活習慣病 (牛山) 第 13回 運動・睡眠・休養 (牛山) 第 14回 飲酒・喫煙 (牛山) 第 15回 健康な食生活とは (牛山)				
授業外学習 (予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する				
成績評価の方法	レポート及び小テスト (70%)、授業への取り組み (30%) を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。				
実務経験について	病院管理栄養士として勤務 (牛山)、国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事 (中島)				

授業科目	授業番号： 15			担当者	田口康明・藤野博行・疋田 京子
	現代人権論			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人権とは何か 各種人権保障の枠組みの理解</p> <p>【概要】世界人権宣言に「すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とにおいて平等である」と規定されているように、人権は世界的規模で保障されるべき普遍的な権利です。しかし、それは具体的にどんな権利なのでしょう。人として生きていくために絶対に必要な権利である人権を具体的にイメージしてみましょう。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会のなかで、私たちはどのような人権問題に直面し、それをどう乗り越えようとしているのか、その原因と背景を踏まえ、人権の普遍性とその保障・実現について理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	藤野担当部分 (1～5回) はグループワークを実施。ランダムに2～4人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に定めない (2) 必要に応じて提示します。				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス・人権総論 (1) 人権の歴史と立憲主義 (藤野) 第 2回 人権総論 (2) : 人権の享有主体 (外国人・子ども・女性の人権)・人権保障の限界 (藤野) 第 3回 人権の内容 (1) : 精神的自由権 (藤野) 第 4回 人権の内容 (2) : 経済的自由権 (藤野) 第 5回 人権の内容 (3) : 人身の自由と適正手続保障・まとめのテスト (藤野) 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25点) 中間試験 (25点), 期末試験 (50点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 16			担当者	前田千春・島津義秀・山下三香子・矢野俊樹
	鹿児島学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】鹿児島の過去と現在を多角的に解析し、未来を展望する。</p> <p>【概要】歴史、食文化、観光、まちづくりの視点から鹿児島の特性を理解し、鹿児島の未来を考える。</p> <p>【到達目標】鹿児島の理解を深め、地域の一員として鹿児島のあるべき姿を考察できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	学生自身の食と郷土への再考する機会を設けます(山下)。講義内にグループで話し合う時間を設けます(前田)。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1回 はじめに：鹿児島学の講義内容の説明(島津、山下、矢野、前田) 第 2回 歴史(1)：鹿児島の歴史について(島津) 第 3回 歴史(2)：鹿児島の思想について(島津) 第 4回 歴史(3)：鹿児島の土風文化について(島津義弘の生き様など)(島津) 第 5回 歴史(4)：鹿児島の土風文化について(薩摩琵琶・天吹について)(島津) 第 6回 食文化(1)：食文化の変遷(山下) 第 7回 食文化(2)：気候風土が生んだ食文化(山下) 第 8回 食文化(3)：地域が生んだ食文化(山下) 第 9回 観光(1)：道の駅の置かれている現状と支援事例(矢野) 第 10回 観光(2)：Jリーグクラブと地域の関わり(矢野) 第 11回 まちづくり(1)：鹿児島のまちづくり(前田) 第 12回 まちづくり(2)：都市地域(前田) 第 13回 まちづくり(3)：農山村地域(前田) 第 14回 まちづくり(4)：離島地域(前田) 第 15回 総括(前田)				
授業外学習 (予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。				
成績評価の方法	担当者毎にレポートで評価をする(配点：島津30点、山下20点、矢野15点、前田35点)				
実務経験について	島津義秀(精矛神社の宮司、加治木島津家の第13代当主)、山下三香子(病院、高齢者施設等での管理栄養士業務)、矢野俊樹(よろず支援拠点での中小企業支援)、前田千春(なし)				

授業科目	授業番号： 17			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	通年	2~4単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、地域の非営利組織を中心とした研修先における社会的活動体験を通し、企画・運営能力を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。</p> <p>【概要】地域の公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。地域の活動を主体的におこなう力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

商経学科は別途、専門科目「社会活動」として開講

授業科目	授業番号： 18		担当者	担当教員
	企業研修		授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	指定なし	通年	2単位	選択
授業形態	実習方式			
テーマ及び概要	<p>【テーマ】インターンシップである「企業研修」は、地元民間企業を中心とした研修先において、就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、地域で働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つ。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示			
授業 スケジュール	第 1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回			
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)			
実務経験について				

商経学科は別途、専門科目「企業研修」として開講 「県短独自分」は2,3年生も受講可能

授業科目	授業番号： 19		担当者	小林 朋子	
	英語 I (A)		授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、理解に支障がない発音で情報や考えを適切に表現できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』成美堂 刊				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 20		担当者	松元 貴子	
	英語 I (A)		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を総合的に学び、スピーキングとライティングを通して、表現する力を鍛える。</p> <p>【概要】スピーキング活動を通して、英語の発音・発声方法を正しく理解し、実践する。ライティング活動を通して、アイデアの出し方やパラグラフの構成力を習得する。また、語彙力・表現力を習得する。ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。</p> <p>【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文章をもとに、正しい音でスピーキングができる。ペアワークでの会話を3分以上続けることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション自己紹介や英語の音の紹介</p> <p>第 2 回 How to start a conversation & how to introduce myself 会話のコツと母音の発音</p> <p>第 3 回 How to organize a paragraph & Brainstorm パラグラフの構成母音の発音</p> <p>第 4 回 Conversation & paragraph 自分のことを書く、話す母音と子音の発音</p> <p>第 5 回 Explain about myself & people 1 自分のことを書く、話す子音の発音と音の省略</p> <p>第 6 回 Explain about myself & people 2 自分のことを書く、話す母音/子音と音の省略</p> <p>第 7 回 Explain about myself & people 3 自分のことを話す母音/子音と音の連結</p> <p>第 8 回 Describing about my experience 1 経験を書く、話す母音/子音と音の連結</p> <p>第 9 回 Describing about my experience 2 経験を書く、話す音の強弱</p> <p>第 10 回 Describing about my experience 3 経験を話す音の強弱</p> <p>第 11 回 Let's talk about my interest1 味のあることを調べる。まとめる。話す</p> <p>第 12 回 Let's talk about my interest2 興味のあることを調べる。まとめる。話す</p> <p>第 13 回 Presentation project preparation 1 味のあることをプレゼンする</p> <p>第 14 回 Presentation project preparation 2 興味のあることをプレゼンする</p> <p>第 15 回 Preparation and review for final まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	スピーキング、発音、ライティングのいずれかを必ず授業外学習として課します。				
成績評価の方法	授業内スピーキング活動などの取り組み (25%) + ライティングなどの提出物 (25%) + グループ発表・プレゼンテーション発表 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 21			担当者	新福 豊実
	英語 I (B)			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語での確に応答することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Following instructions (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (40%) 課題 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 22			担当者	新福 豊実
	英語 I (B)			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業スケジュール	第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3 回 Following instructions (Unit 2) 第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (40%) 課題 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 23		担当者	新福 豊実	
	英語 I (C)		授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業スケジュール	第 1回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3回 Following instructions (Unit 2) 第 4回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8回 Review I 第 9回 Talk about your past (Unit 7) 第 10回 Describe animals and (Unit 8) 第 11回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (40%) 課題 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 24			担当者	小林 朋子
	英語 I (C)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、理解に支障がない発音で情報や考えを適切に表現できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』成美堂 刊				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 25			担当者	金岡 正夫
	英語 I (D)			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】音読スキルの向上に努め、発信能力を身につける。国内外の大学事情にも興味をもち、知見を深めていく。</p> <p>【概要】実社会や海外に通用する大学生づくりを英語使用を通して高めていく。同時に自国の歴史、特に明治期に文明開化と国際化に出会った歴史についてもふれていく。授業では考えたり、話し合いをもとに内容を深め、それを確かな自分の姿（卒業後の進路・キャリアプランを含めて）にもつなげていく。</p> <p>【到達目標】発音記号の読み方、ポーズの入れ方、安定した速度、流暢な連結発音、感情移入—こうした音読スキルを習得する。テキストで学んだことを英語で書き、プレゼンテーションできる能力を磨く。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして (英宝社) ISBN 978-4-269-13017-3				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして (英宝社) ISBN 978-4-269-13017-3 (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 音読知識・スキル (発音、アクセント) 第 3回 音読知識・スキル (チャンキングルール) 第 4回 音読知識・スキル (リエゾン、WPM) 第 5回 音読知識・スキル (パラ言語) 第 6回 読解方略 (1) 論理構成・展開の理解 第 7回 読解方略 (2) 英文のつながりと重要語彙 第 8回 読解方略 (3) 内容理解 (要約) 第 9回 読解方略 (4) 内容理解 (Gist Making) 第 10回 発表、聞き取り、質疑応答練習 (1) (日本語) 第 11回 発表、聞き取り、質疑応答練習 (2) (日本語) 第 12回 発表、聞き取り、質疑応答練習 (1) (英語) 第 13回 発表、聞き取り、質疑応答練習 (2) (英語) 第 14回 まとめ (1) 大学生として知るべき価値観、世界観、国内の歴史 第 15回 まとめ (2) 大学生として知るべき価値観、世界観、国内の歴史				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示します				
成績評価の方法	プレゼンテーション (20%)、レポート (テキスト関連) (20%)、レポート (プレゼンテーション関連) (60%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 26		担当者	石原 知英	
	英語 I (D)		授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】 この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝えるための活動を行います。</p> <p>【到達目標】 (1) 300語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる。 (2) 事前に準備した上で、英語で3分程度のスピーチを行うことができる。 (3) 聞き手の理解に配慮しながら英語を話すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明） 第 2回 最初のプレゼンテーション 第 3回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる 第 4回 Informative Presentation 2: 話題ごとに述べる 第 5回 Informative Presentation 3: 分類して説明する 第 6回 Informative Presentation 4: 手順を説明する 第 7回 Informative Presentation 5: 定義して説明する 第 8回 中間プレゼンテーションと振り返り 第 9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する 第 10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する 第 11回 Persuasive Presentation 3: 改善策を提案する 第 12回 Persuasive Presentation 4: 因果関係を論じる 第 13回 Persuasive Presentation 5: 比較して主張する 第 14回 Persuasive Presentation 6: 反論を踏まえて主張する 第 15回 最終プレゼンテーションと振り返り				
授業外学習 (予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句・表現および例文の確認（復習）				
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%）とクラス内での発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）による。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 27		担当者	石原 知英	
	英語 I (D)		授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】 この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝えるための活動を行います。</p> <p>【到達目標】 (1) 300語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる。 (2) 事前に準備した上で、英語で3分程度のスピーチを行うことができる。 (3) 聞き手の理解に配慮しながら英語を話すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明） 第 2回 最初のプレゼンテーション 第 3回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる 第 4回 Informative Presentation 2: 話題ごとに述べる 第 5回 Informative Presentation 3: 分類して説明する 第 6回 Informative Presentation 4: 手順を説明する 第 7回 Informative Presentation 5: 定義して説明する 第 8回 中間プレゼンテーションと振り返り 第 9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する 第 10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する 第 11回 Persuasive Presentation 3: 改善策を提案する 第 12回 Persuasive Presentation 4: 因果関係を論じる 第 13回 Persuasive Presentation 5: 比較して主張する 第 14回 Persuasive Presentation 6: 反論を踏まえて主張する 第 15回 最終プレゼンテーションと振り返り				
授業外学習 (予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句・表現および例文の確認（復習）				
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%）とクラス内での発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）による。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 28			担当者	野田ゆり子
	英語 I (D)			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で学ぶ現代社会</p> <p>【概要】本授業は、商経学科経営情報専攻1年生の必修科目です。身近なテーマで書かれた英文を読み、内容を理解した上で、こうしたテーマについて自分で考え、発信する力を養うことを目標としています。主としてリーディングを中心としますが、ディスカッションやプレゼンテーションなども行い、自分自身がどう思うか、なぜそう思うかを英語で説明できるようにします。</p> <p>【到達目標】英文を読んで理解し、扱うテーマに基づいてグループ・プレゼンテーションを行うことで、より高度な読解力と発信力を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Clive Langham. Developing Academic English: Intermediate. Asahi Press.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Clive Langham. Developing Academic English: Intermediate. Asahi Press. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Unit1: What Can We Do to Fight Climate Change? (前半) 第 2回 Unit1: What Can We Do to Fight Climate Change? (後半) 第 3回 Unit2: Some People Do Not Want to Use Emoney (前半) 第 4回 Unit2: Some People Do Not Want to Use Emoney (後半) 第 5回 Unit4: What Is the Best Type of Exercise? (前半) 第 6回 Unit4: What Is the Best Type of Exercise? (後半) 第 7回 Unit10: Are You Ready for Unmanned Convenience Stores? (前半) 第 8回 Unit10: Are You Ready for Unmanned Convenience Stores? (後半) 第 9回 Unit12: How Healthy Is Your Breakfast? (前半) 第 10回 Unit12: How Healthy Is Your Breakfast? (後半) 第 11回 Unit14: Noise Pollution Can Have a Negative Effect on Your Health (前半) 第 12回 Unit14: Noise Pollution Can Have a Negative Effect on Your Health (後半) 第 13回 Presentation Preparation1 第 14回 Presentation Preparation2 第 15回 Group Presentation				
授業外学習 (予習・復習)	予習：テキストに出てくる単語を調べておく、小テスト勉強 復習：小テストで間違った部分を見直しておく その他：プレゼンテーション準備				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 30%、小テストが 40%、プレゼンテーションが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 29			担当者	パトリック・ゴースム
	英語Ⅱ（A）			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo II is a multi skills English class practicing speaking, listening and reading.</p> <p>【概要】 Students will work have regular homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop their overall English abilities.</p>				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) Class orientation</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Unit 1 How was your vacation?</p> <p>第 2回 Unit 1 How was your vacation?</p> <p>第 3回 Unit 1 How was your vacation?</p> <p>第 4回 Unit 2 I think it's exciting!</p> <p>第 5回 Unit 2 I think it's exciting!</p> <p>第 6回 Unit 2 I think it's exciting!</p> <p>第 7回 Unit 3 Do it before you're 30!</p> <p>第 8回 Unit 3 Do it before you're 30!</p> <p>第 9回 Unit 4 The best place in the world!</p> <p>第10回 Unit 4 The best place in the world!</p> <p>第11回 Unit 5 Where's the party?</p> <p>第12回 Unit 5 Where's the party?</p> <p>第13回 Unit 6 You should try it!</p> <p>第14回 Final Exam</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	Final Exam (50%), Speaking test (30%), Quizzes (10%), Attendance (10%)				
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 30			担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	英語Ⅱ (A)			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This class will combine the 4 skills to allow students to express opinions about a variety of topics in English.</p> <p>【概要】 We will use handouts and videos in our class and discussions. They will depend on the student level and interests.</p> <p>【到達目標】 There will be pair work, group work and small practice presentations. Topics will vary each time.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	No designated textbook. Worksheets and handouts will be given at the beginning of each class.				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) No designated textbook. Worksheets and handouts will be given at the beginning of each class.</p> <p>(2) プリントを配布する場合があります。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation class</p> <p>第 2 回 Worksheet/pair work: Friendship</p> <p>第 3 回 Worksheet/pair work: Happiness</p> <p>第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation</p> <p>第 5 回 グループ発表 1 First presentation (scheduled)</p> <p>第 6 回 Video Watch: share your opinion 1</p> <p>第 7 回 Video Watch: share your opinion 2</p> <p>第 8 回 Worksheet/pair work: Food</p> <p>第 9 回 Worksheet/pair work: SDGs 1</p> <p>第 10 回 Worksheet/pair work: SDGs 2</p> <p>第 11 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation</p> <p>第 12 回 グループ発表 2 Second presentation</p> <p>第 13 回 Worksheet/pair work: Travel</p> <p>第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered.</p> <p>第 15 回 まとめ (Final worksheet/Revision)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題-20%) を基準に、総合的に評価する。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 31			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅱ（B）			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' English communication skills.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入－コースの目標についての説明)</p> <p>第 2回 Unit 1: My heart will go on</p> <p>第 3回 Unit 2: Open arms</p> <p>第 4回 Unit 3: Life</p> <p>第 5回 Unit 4: Don't look back in anger</p> <p>第 6回 Unit 5: A whole new world</p> <p>第 7回 Unit 6: I don't want to miss a thing</p> <p>第 8回 Unit 7: Review 1</p> <p>第 9回 Unit 8: The stranger</p> <p>第10回 Unit 9: Hey Now</p> <p>第11回 Unit 10: Every time I close my eyes</p> <p>第12回 Unit 11: Kiss of life</p> <p>第13回 Unit 12: All I want for Christmas is you</p> <p>第14回 Unit 13: Livin' la vida loca</p> <p>第15回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 32			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅱ（B）			授業外対応	After the class
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The course will provide students with basic speaking and listening skills.</p> <p>【概要】 Students will discuss selected topics and respond to opinions using clearly defined and easily reproduced conversation models. In-class activities will be supplemented with some homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The course will emphasize reducing unnatural silence, confirming information and responding to questions concisely and accurately.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	All materials will be prepared by the instructor.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be prepared by the instructor. (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1回 Course overview and survey 第 2回 The 5 Ws for making/understanding questions 第 3回 Describing a person 第 4回 Clothing and fashion 第 5回 Cooking and eating 第 6回 Going and coming back, traveling 第 7回 Complaining, recommending and commanding 第 8回 Review Test 1 第 9回 Hobbies and Weekend Activities 第 10回 How to keep conversation going 第 11回 Memories of childhood 第 12回 Memories of other places 第 13回 Talking about problems 第 14回 Giving advice 第 15回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 33			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅱ (C)			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' English communication skills.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第 2回 Unit 1: My heart will go on</p> <p>第 3回 Unit 2: Open arms</p> <p>第 4回 Unit 3: Life</p> <p>第 5回 Unit 4: Don't look back in anger</p> <p>第 6回 Unit 5: A whole new world</p> <p>第 7回 Unit 6: I don't want to miss a thing</p> <p>第 8回 Unit 7: Review 1</p> <p>第 9回 Unit 8: The stranger</p> <p>第10回 Unit 9: Hey Now</p> <p>第11回 Unit 10: Every time I close my eyes</p> <p>第12回 Unit 11: Kiss of life</p> <p>第13回 Unit 12: All I want for Christmas is you</p> <p>第14回 Unit 13: Livin' la vida loca</p> <p>第15回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 34			担当者	内尾ホープ
	英語Ⅱ (C)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The main objective is to improve reading, listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Students will mainly practice, reading, listening and speaking skills.</p> <p>【到達目標】 The emphasis will be on improving, reading, speaking and listening skills.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Global Issues: An Introduction to Discussion Skills				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Global Issues: An Introduction to Discussion Skills</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Introduction</p> <p>第 2回 Unit 1: warm-up conversation, textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 3回 Warm-up conversation; Unit 1 oral quiz;; Unit 2: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 4回 Warm-up conversation Unit 2 oral quiz; Unit 3: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 5回 Warm-up conversation; Unit 3 oral quiz; Unit 4: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 6回 Unit 4 oral quiz; UNIT 3 SHORT TEST; Unit 5: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 7回 Warm-up conversation; Unit 5 oral quiz; Unit 6: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 8回 Warm-up conversation; Unit 6 oral quiz; Unit 7: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第 9回 Unit 7 oral quiz; UNIT 6 SHORT TEST; Unit 8: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第10回 Warm-up conversation; Unit 8 oral quiz; Unit 9: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第11回 Warm-up conversation; Unit 9 oral quiz; Unit 10: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第12回 Unit 10 oral quiz; UNIT 9 SHORT TEST; Unit 11: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第13回 Warm-up conversation; Unit 11 oral quiz; Unit 12: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第14回 Warm-up conversation; Unit 12 oral quiz; Unit 13: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p> <p>第15回 Unit 13 oral quiz; UNIT 12 SHORT TEST; Unit 14: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations</p>				
授業外学習 (予習・復習)	なし				
成績評価の方法	Oral Quizzes: 15% Worksheets: 15% Short Tests: 30% Final Exam: 40%				
実務経験について	A written final exam will be given on the 16th day.				

授業科目	授業番号： 35			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅱ (D)			授業外対応	After Class, and as needed
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course develops listening and speaking proficiency.</p> <p>【概要】 Each unit includes a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to improve their ability to use English in short conversations and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Students will develop their ability to speak and comprehend English. Their confidence in the use of English will be strengthened.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course, key concepts 第 2回 Meeting New People 第 3回 Family 第 4回 Transportation in the City 第 5回 Shopping 第 6回 Celebrations 第 7回 Review Quiz 第 8回 Volunteering 第 9回 Staying Well 第 10回 Pets 第 11回 Free Time Activities 第 12回 Music 第 13回 Volunteering 第 14回 Review of Key Units in Class Groups 第 15回 Final Oral Review Practice				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 36			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅱ (D)			授業外対応	After the class
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The course will provide students with basic speaking and listening skills.</p> <p>【概要】 Students will discuss selected topics and respond to opinions using clearly defined and easily reproduced conversation models. In-class activities will be supplemented with some homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The course will emphasize reducing unnatural silence, confirming information and responding to questions concisely and accurately.</p>				
学生の主体的 ・対話的な学び	All materials will be prepared by the instructor.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be prepared by the instructor. (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1回 Course overview and survey 第 2回 The 5 Ws for making/understanding questions 第 3回 Describing a person 第 4回 Clothing and fashion 第 5回 Cooking and eating 第 6回 Going and coming back, traveling 第 7回 Complaining, recommending and commanding 第 8回 Review Test 1 第 9回 Hobbies and Weekend Activities 第 10回 How to keep conversation going 第 11回 Memories of childhood 第 12回 Memories of other places 第 13回 Talking about problems 第 14回 Giving advice 第 15回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験(について)					

授業科目	授業番号： 37			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅱ (D)			授業外対応	After Class, and as needed
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course develops listening and speaking proficiency.</p> <p>【概要】 Each unit includes a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to improve their ability to use English in short conversations and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Students will develop their ability to speak and comprehend English. Their confidence in the use of English will be strengthened.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course, key concepts 第 2回 Meeting New People 第 3回 Family 第 4回 Transportation in the City 第 5回 Shopping 第 6回 Celebrations 第 7回 Review All Previous Chapters 第 8回 Volunteering 第 9回 Staying Well 第 10回 Pets 第 11回 Free Time Activities 第 12回 Music 第 13回 Volunteering 第 14回 Review of Key Units in Class Groups 第 15回 Final Oral Review Practice				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 38			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅱ (D)			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' English communication skills.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第 2回 Unit 1: My heart will go on</p> <p>第 3回 Unit 2: Open arms</p> <p>第 4回 Unit 3: Life</p> <p>第 5回 Unit 4: Don't look back in anger</p> <p>第 6回 Unit 5: A whole new world</p> <p>第 7回 Unit 6: I don't want to miss a thing</p> <p>第 8回 Unit 7: Review 1</p> <p>第 9回 Unit 8: The stranger</p> <p>第10回 Unit 9: Hey Now</p> <p>第11回 Unit 10: Every time I close my eyes</p> <p>第12回 Unit 11: Kiss of life</p> <p>第13回 Unit 12: All I want for Christmas is you</p> <p>第14回 Unit 13: Livin' la vida loca</p> <p>第15回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 39			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅲ (A)			授業外対応	After the class
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The class further develops skills to help English ability.</p> <p>【概要】 Students will learn to identify topics for discussion and utilize rhetorical strategies in order to initiate or participate in basic debate. Using clear conversation models, students should be able to identify a topic, give their opinions and support thei</p> <p>【到達目標】 This course will help students organize ideas, form opinions and provide reasons in order to have more meaningful English conversations.</p>				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1回 Course overview and survey 第 2回 Music and Movies 第 3回 Polite English & negative expressions 第 4回 Inviting and declining 第 5回 Reporting what someone else said 第 6回 Talking about feelings 第 7回 Stress and intonation 第 8回 Review Test 1 第 9回 Finding issues and giving opinions 第 10回 Giving reasons 第 11回 Supporting your reasons 第 12回 Debate practice 第 13回 Confirming and summarizing a thought 第 14回 Refuting someone's argument 第 15回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 40			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅲ (B)			授業外対応	After Class, and as needed
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course develops proficiency in English and content knowledge.</p> <p>【概要】 This course focuses on developing the students' proficiency in English (reading, writing, speaking and listening) through the study of content materials related to the subjects of health, science, and nutrition. Other subject areas may be introduced. Topi</p> <p>【到達目標】 This course improves reading comprehension, develops vocabulary knowledge, and fosters the ability to express opinions in spoken English.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Health Habits for a Better Life. Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi. (Seibido. Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Health Habits for a Better Life. Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi. (Seibido. Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction to the course, key concepts 第 2回 Sleep is Important 第 3回 Is Salt Bad for Us? 第 4回 Water is Wonderful 第 5回 Hot Springs: A Miracle of Nature 第 6回 Healthy Lessons from the Blue Zones 第 7回 Unhealthy Habits 第 8回 Let's Dance 第 9回 The Story of Sugar 第 10回 Companion Animals 第 11回 Music and Medicine 第 12回 Please Listen to Me! 第 13回 Let's Eat Together! 第 14回 Believe in Yourself! 第 15回 The Interview & Reivew				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 41			担当者	金岡 正夫
	英語Ⅲ (C)			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】大学生の視点から幅広く社会観や世界観を身につける。自国の歴史、開国と英語の到来の明治期、英語学習の動機づけなどを扱う。</p> <p>【概要】テキストを使いながら人生進路を含め、自身のアイデンティティ構築に取り組む。積極的に日本語（母語）と英語（外国語）を活用していく。予習課題をもとに音読とライティングの学習強化をはかる。</p> <p>【到達目標】スムーズに音読ができ、自分の考えや意見を英語で述べる。論理的な内容を日本語と英語で作れるよう、ライティング知識も習得していく。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3 (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 音読知識とテクニック (1) 発音、アクセント 第 3回 音読知識とテクニック (2) チャンキングルールとフレーズリーディング 第 4回 音読知識とテクニック (3) 連結発音（リエゾン）に関するルールの理解と実践 第 5回 音読知識とテクニック (4) Words Per Minute (WPM) を使った安定した速読練習 第 6回 音読知識とテクニック (5) パラ言語の理解と応用実践 第 7回 音読知識とテクニック (6) 学習したすべての項目を統合したスピーキング練習 (1) 第 8回 音読知識とテクニック (6) 学習したすべての項目を統合したスピーキング練習 (2) 第 9回 英文読解に向けた方略 (1) テキストの論理の流れの理解（タテのつながり） 第 10回 英文読解に向けた方略 (2) テキストの論理の流れの理解（ヨコのつながり） 第 11回 自身の考えを述べる—論理的な内容構築の練習 第 12回 自身の考えを述べる—英文読解をふまえた要約づくりの練習 第 13回 自身の考えを述べる—英文読解をふまえたポイント中心の要約づくりの練習 第 14回 まとめ—自分自身にとって英語とは？その学習の存在意義とは？ 第 15回 まとめ—大学生としてもつべき価値観、信念、生き方とは？				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示します				
成績評価の方法	プレゼンテーション (20%)、レポート (テキスト関連) (20%)、レポート (プレゼンテーション関連) (60%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 42			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅲ (D)			授業外対応	After Class, and as needed
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English in daily life.</p> <p>【概要】 The course provides students with opportunities to develop their listening skills, conversational skills, and vocabulary knowledge. Students listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create role plays and perform them before</p> <p>【到達目標】 Proficiency in conversational English is developed. By providing many opportunities for speaking practice, the students' confidence is enhanced.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Listen to this! Inter. James Bean with Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen to this! Inter. James Bean with Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction to the course, key concepts & "Please Leave a Message". 第 2回 You Need a Break! 第 3回 I Think We're Lost 第 4回 Where did You Grow Up? 第 5回 It's a goal! 第 6回 Sightseeing 第 7回 TV Violence 第 8回 I'd Like to Return This 第 9回 What a Great Vacation! 第 10回 Can You Help Me with My Essay? 第 11回 What Happens to Our Trash? 第 12回 I Feel Terrible 第 13回 Future Plans 第 14回 I Disagree! 第 15回 Review and Consolidation				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 43			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅲ (E)			授業外対応	After Class, and as needed
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course develops English proficiency; the ability to express opinions.</p> <p>【概要】 Student listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. They learn how to express their own opinions and engage in short discussions related to the topics encountered in the text.</p> <p>【到達目標】 The course develops the student's proficiency in everyday conversational English and their ability to confidently express their opinions on many topics.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Complete Communication Intermediate James Bury et.al. (Sebido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Complete Communication Intermediate James Bury et.al. (Sebido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction to the Course 第 2回 What are You Into? Talking about Hobbies and Interests 第 3回 Who are They? Talking about friends and family 第 4回 What Shall we Watch? Talking about Movies and TV 第 5回 What are you Listening to? Talking about Music 第 6回 What are you reading? Talking about books 第 7回 I'm Hungry – Talking about Food 第 8回 Review 1 第 9回 How do you stay fit? Talking about Health 第 10回 I Don't Feel so Good – Talking about Illness 第 11回 Why Do You Do That? Talking about Culture 第 12回 It's a Special Day – Talking about Holidays and Festivals 第 13回 I've Never Done That Before – Talking about Experiences 第 14回 Let's Meet in Paris! Talking about the Future 第 15回 Review and Consolidation				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 44			担当者	新福 豊実
	英語Ⅲ（F）			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。前期開講の英語 I(B)(C)から発展させた内容を学習します（ただし前期開講の英語 I(B)(C)の履修が必須ではありません）。</p> <p>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業スケジュール	第 1回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero) 第 2回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1) 第 3回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2) 第 4回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3) 第 5回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4) 第 6回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5) 第 7回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6) 第 8回 Review I 第 9回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7) 第 10回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8) 第 11回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9) 第 12回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10) 第 13回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11) 第 14回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12) 第 15回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験（40%）復習テスト（40%）課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 45			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅲ (G)			授業外対応	After the class
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The class further develops skills to help English ability.</p> <p>【概要】 Students will learn to identify topics for discussion and utilize rhetorical strategies in order to initiate or participate in basic debate. Using clear conversation models, students should be able to identify a topic, give their opinions and support thei</p> <p>【到達目標】 This course will help students organize ideas, form opinions and provide reasons in order to have more meaningful English conversations.</p>				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1回 Course overview and survey 第 2回 Music and Movies 第 3回 Polite English & negative expressions 第 4回 Inviting and declining 第 5回 Reporting what someone else said 第 6回 Talking about feelings 第 7回 Stress and intonation 第 8回 Review Test 1 第 9回 Finding issues and giving opinions 第 10回 Giving reasons 第 11回 Supporting your reasons 第 12回 Debate practice 第 13回 Confirming and summarizing a thought 第 14回 Refuting someone's argument 第 15回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 46			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅳ（A）			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' communication skills.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	English with Pop Hits; Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Pop Hits; Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明) 第 2回 Unit 1: Complicated 第 3回 Unit 2: SOS 第 4回 Unit 3: You are not alone 第 5回 Unit 4: Don't want to lose you 第 6回 Unit 5: How crazy are you 第 7回 Unit 6: Sunday Morning 第 8回 Unit 7: Review 1 第 9回 Unit 8: I want it that way 第 10回 Unit 9: Suddenly I see 第 11回 Unit 10: How am I supposed to live without you 第 12回 Unit 11: Save the best for Last 第 13回 Unit 12: Torn 第 14回 Unit 13: La La means I love you 第 15回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 47			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅳ（B）			授業外対応	After Class, and as needed
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course develops listening and speaking proficiency.</p> <p>【概要】 This course develops the listening and speaking proficiency of students through the study and practice of English in everyday situations. It encourages creativity by allowing students to create their own conversations.</p> <p>【到達目標】 Students will gain the ability to communicate in English naturally with confidence and become more capable of conversing creatively.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Listen Up, Talk Back, Book 2. Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book 2. Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course, key concepts 第 2回 Campus Life 第 3回 Health Care 第 4回 My Favorite Things 第 5回 International Travel 第 6回 Weather 第 7回 Education 第 8回 Review All Previous Chapters 第 9回 Exploring a New City 第 10回 Learning English 第 11回 Money 第 12回 The Environment 第 13回 News 第 14回 Review of Key Units in Class Groups 第 15回 Final Oral Review Practice				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

None

授業科目	授業番号： 48		担当者	金岡 正夫	
	英語Ⅳ（D）		授業外対応	授業終了後	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自己成長と英語学習の成熟に向け、卒業までに重要となる考え方、人生観、世界観を学んでいく。</p> <p>【概要】実社会や海外に通用する大学生づくりとは何か—どうすればそれが構築していけるのか、英文読解を介して進めていく。担当教員の個人体験（米国大学院留学生活）も紹介する。授業では考えたり話し合いをもとに内容理解を深め、予習課題を通して確かな自分づくりにつなげていく。同時に英語の本質（存在意義）についても理解を広めていく。</p> <p>【到達目標】世界トップレベルの大学が考えている「大学生力」や「人生の成功の意味」を理解する。関連した格言（座右の銘）も理解する。自分が持つべき信念や価値観も明らかにし、英語で述べていく。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3 (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 米国の大学入試問題（エッセイ）が重視すること 第 3回 米国の大学教育で伝統的に重視する点とその理由 第 4回 英国の大学入試問題で試されること 第 5回 英国の大学がもっているこだわりと信念 第 6回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景（1） 第 7回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景（2） 第 8回 まとめ 第 9回 グローバル時代の英語学習者と英語学習動機づけ 第 10回 グローバル社会の功罪について大学で議論すべきこと 第 11回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念（1） 第 12回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念（2） 第 13回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念（3） 第 14回 自分自身にとって英語とは？その学習の存在意義とは？ 第 15回 まとめ				
授業外学習（予習・復習）	適宜指示します				
成績評価の方法	プレゼンテーション（20%）、レポート（テキスト関連）（20%）、レポート（プレゼンテーション関連）（60%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 49			担当者	野田 ゆり子
	英語Ⅳ（E）			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英検 2 級対策</p> <p>【概要】本授業は、英検対策を目的としたクラスです。Listening と Reading の問題を解いていくだけでなく、単語テストを行ったり、Writing を学生同士で添削し合ったり、面接の対策を行ったりすることで、英語の四技能（Listening, Reading, Writing, Speaking）をバランス良く向上させます。自分の弱点を発見し、個々の課題に向かって取り組むことで、英検 2 級合格レベルの英語力に到達することを最終的な目標としています。</p> <p>【到達目標】英語の四技能（Listening, Reading, Speaking, Writing）をバランスよく向上させ、英検 2 級レベルに到達する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Hiromi Imamura et al. Path to Success（英検 2 級 サクセスパス）. Kinseido. Judith Nadell et al. Vocabulary Basics. Seibido.				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Hiromi Imamura et al. Path to Success（英検 2 級 サクセスパス）. Kinseido. Judith Nadell et al. Vocabulary Basics. Seibido.</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Introduction: 英検 2 級ミニテスト（弱点の確認）</p> <p>第 2 回 Lesson1: Reading and Listening</p> <p>第 3 回 Lesson2: Reading and Listening</p> <p>第 4 回 Lesson3: Reading and Listening</p> <p>第 5 回 Lesson4: Reading and Listening</p> <p>第 6 回 Vocabulary Quiz1、Writing</p> <p>第 7 回 Lesson5: Reading and Listening</p> <p>第 8 回 Lesson6: Reading and Listening</p> <p>第 9 回 Lesson7: Reading and Listening</p> <p>第 10 回 Lesson8: Reading and Listening</p> <p>第 11 回 Vocabulary Quiz2、Writing</p> <p>第 12 回 英検 2 級模擬テスト（Reading and Listening）</p> <p>第 13 回 英検 2 級模擬テスト（Reading and Listening 答え合わせ、Writing）</p> <p>第 14 回 二次試験面接対策</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：単語の勉強 復習：授業で間違えた問題を見直しておく				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 20%、Vocabulary Quiz が 40%、復習テストが 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 50			担当者	遠峯 伸一郎
	英語Ⅳ（F）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1, 2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な英文法と英作文。</p> <p>【概要】単語とフレーズの間を整理し、文がフレーズでできていることを学ぶ。その後、一つの文を正しく完成させる力を養成し、最終的にはまとまりのある一定の長さの文章を完成できることを目標とする。</p> <p>【到達目標】日本語と英語の表現様式の違いを理解し、英語として適切な英作文ができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	石井洋佑 (2023) 『ゼロから覚醒 はじめよう英作文』かんき出版, 東京。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石井洋佑 (2023) 『ゼロから覚醒 はじめよう英作文』かんき出版, 東京。</p> <p>(2) 三森ゆりか (2003) 『外国語を身につけるための日本語レッスン』大修館書店, 東京。／池上嘉彦 (2006) 『英語の感覚・日本語の感覚 <ことばの意味>の仕組み』NHK 出版, 東京。／四軒家忍 (2019) 『TOEFL テスト集中攻略ライティング』テイェス企画, 東京。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 Stage 1 (1)</p> <p>第 3回 Stage 1 (2)</p> <p>第 4回 Stage 2 (1)</p> <p>第 5回 Stage 2 (2)</p> <p>第 6回 Stage 3 (1)</p> <p>第 7回 Stage 3 (2)</p> <p>第 8回 Stage 4 (1)</p> <p>第 9回 Stage 4 (2)</p> <p>第 10回 Stage 4 (3)</p> <p>第 11回 Stage 5 (1)</p> <p>第 12回 Stage 5 (2)</p> <p>第 13回 Stage 6 (1)</p> <p>第 14回 Stage 6 (2)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 1 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 51		担当者	英語担当教員全員	
	異文化コミュニケーション (英語)		授業外対応		
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
		通年	2単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】 ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2025年度の実績</p> <p>日程：9月1日～9月13日</p> <p>参加者：30名</p> <p>研修費用：約47万円※1ドルが145円～160円の場合（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】 英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業 スケジュール	<p>事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 52			担当者	中国語担当教員全員
	異文化コミュニケーション (中国語)			授業外対応	ガイダンスで指示
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	通年	2単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】 県立短大と交流協定を結んでいる南京農業大学国際教育学院で研修を行います。この科目は中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を学びながら南京農業大学の学生とも交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2019年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日文3, 英文4, 経済1, 経情2, 二部1） ・費用：約19万円（ビザ, 往復航空券, 授業料, 宿泊費, 南京市内・市外の見学費用など） <p>【到達目標】 中国語運用能力を高めるだけでなく、中国の文化を学び、「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	南京農業大学の担当教員が指示				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学の担当教員が指示 (2) なし				
授業スケジュール	<p>事前指導：受講希望者に3～5回行います。[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修：9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導：帰国後に総括します。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）をもとに成績を算出します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 53		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ	
	スペイン語 I		授業外対応	オフィスアワー及びメール	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本コースでは、スペイン語の基本的な文法、語彙とスキルを学ぶ。</p> <p>【概要】スペインおよびヒスパニック文化に関連する様々なテーマを通じて、スペイン語の基礎を学習する</p> <p>【到達目標】本コースでは、生徒が日常会話に適したスペイン語の基本的な語彙や表現を習得し、使用できるようになります。同時に、会話やその他の活動における文法の学習を通じて、聴解力を深め、スペイン語の基礎知識を強化します。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ユニット 1：挨拶と別れの言葉。文法：「ser」と「llamarse」動詞。会話練習。</p> <p>第 2回 ユニット 1：自己紹介。文法：「tener」動詞；疑問代名詞；指示詞。会話練習</p> <p>第 3回 ユニット 1：誰かを紹介・個人情報を探したり提供したりする。文法：性別と数；アルファベットと数字；定冠詞。会話練習</p> <p>第 4回 スペインとラテンアメリカの文化</p> <p>第 5回 ユニット 2: 習慣や日常的な行動について話す。文法：現在形の動詞を使って、個人情報を適用したり習慣になしたりする。会話練習。</p> <p>第 6回 ユニット 2: スケジュールと頻度について話す。文法：頻度を表す副詞と表現。会話練習。</p> <p>第 7回 ユニット 2: 個人データ及び他者のデータに関する情報の要求と提供・時間と日付を尋ねて伝える。文法：疑問代名詞。会話練習。</p> <p>第 8回 小テスト</p> <p>第 9回 ユニット 3: 個人的な関係や家族関係について話す。文法：所有格。会話練習。</p> <p>第 10回 ユニット 3: 外見と性格について話す。文法：「estar」動詞。会話練習。</p> <p>第 11回 ユニット 3: 比較する・家を説明する。文法：比較級。会話練習。</p> <p>第 12回 スペインとラテンアメリカの文化</p> <p>第 13回 ユニット 4: 場所の存在と位置について報告する・住所を尋ねて教える。文法：不定冠詞・存在と位置を表す動詞。会話練習。</p> <p>第 14回 ユニット 4: 場所の行き方を指示する・注目を集める。文法：市時代名詞と場所を表す副詞・指示を表す動詞。会話練習。</p> <p>第 15回 ユニット 4: 電話で話す。文法：「ir」, 「venir」, 「llevar」, 「traer」動詞・序数。会話練習。まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	小テストと期末試験の点数の平均				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 54		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ	
	スペイン語Ⅱ		授業外対応	オフィスアワー及びメール	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本コースでは、スペイン語の基本的な文法、語彙とスキルを学ぶ。</p> <p>【概要】スペインおよびヒスパニック文化に関連する様々なテーマを通じて、スペイン語の基礎を学習する</p> <p>【到達目標】本コースでは、生徒が日常会話に適したスペイン語の基本的な語彙や表現を習得し、使用できるようになります。同時に、会話やその他の活動における文法の学習を通じて、聴解力を深め、スペイン語の基礎知識を強化します。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ユニット 1: 好みや嗜好を表現する・賛成と反対を表明する。文法：「gustar」, 「encantar」, 「querer」, 「preferir」。会話練習</p> <p>第 2 回 ユニット 1: 趣味について話す・原因を述べる。文法：「porque」。会話練習</p> <p>第 3 回 ユニット 1: 言うことを強化する・スキルについて話す。文法：相対的・絶対的の最上級「saber」と「poder」動詞。会話練習。</p> <p>第 4 回 スペインとラテンアメリカ文化</p> <p>第 5 回 ユニット 2: プランを提案する。文法：プランを提案、承諾、拒否するためのリソース。会話練習。</p> <p>第 6 回 ユニット 2: 進行中の取り組みについて話す。文法：「estar」+ 現在分詞。</p> <p>第 7 回 ユニット 2: バーやレストランで振る舞う。文法：「poner」動詞。会話練習</p> <p>第 8 回 小テスト</p> <p>第 9 回 ユニット 3: スーパーやお店で買い物する・値段を尋ねる。文法：不定詞・数量詞。会話練習</p> <p>第 10 回 ユニット 3: 数量について話す・衣類、素材、モニについて説明する。文法：数字 (100 から 1000 まで)・三人称の目的語。会話練習</p> <p>第 11 回 ユニット 3: 目的を表明する。文法：前置詞「para」・関係名詞「que」のいくつかの用法。会話練習</p> <p>第 12 回 スペインとラテンアメリカの文化。</p> <p>第 13 回 ユニット 4: 気分や体調を表現し、痛みについて話す。文法：「doler」, 「encontrarse」, 「sentirse」動詞。会話練習</p> <p>第 14 回 ユニット 4: 必要性を表明する。文法：「tener que」+ 不定詞；「necesitar」+ 不定詞；「deber」+ 不定詞。会話練習。</p> <p>第 15 回 ユニット 4: アドバイスを求めたり与えたりする・命令を下し、禁止事項を述べる文法：「es」+ 形容詞+ 不定詞。会話練習。まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	小テストと期末試験の点数の平均				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 55			担当者	荒巻 那月
	ドイツ語 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】音読を中心にドイツ語の基礎を学び、文法構造を修得する。</p> <p>【概要】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスと共にこの動きの中核をなす国の一つです。またドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながらドイツ語を学習します。ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、授業は元気に声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞書』三修社				
授業スケジュール	第1回 ドイツ語及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第2回 綴り字と発音の規則、発音練習 第3回 第1課 人称と動詞の現在人称変化、定動詞の位置、動詞 sein 第4回 第1課 第5回 第1課 第6回 第2課 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格変化、動詞 haben 第7回 第2課 第8回 第2課 第9回 第3課 名詞の複数形、複数名詞の格変化、男性弱変化名詞 第10回 第3課 第11回 第4課 不規則動詞、命令形、人称代名詞、動詞 werden 第12回 第4課 第13回 第4課 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要。				
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 56			担当者	荒巻 那月
	ドイツ語Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】音読を中心にドイツ語の基礎を学び、文法構造を修得する。</p> <p>【概要】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスと共にこの動きの中核をなす国の一つです。またドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながらドイツ語を学習します。ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、授業は元気に声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞書』三修社				
授業スケジュール	第1回 前期の復習 第2回 第5課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形 第3回 第5課 第4回 第5課 第5回 第6課 定冠詞類、不定冠詞類、否定の nicht、否定冠詞 kein 第6回 第6課 第7回 第7課 分離動詞、非分離動詞、副文、従属接続詞 第8回 第7課 第9回 第7課 第10回 第8課 話法の助動詞、未来形 第11回 第8課 第12回 第9課と10課 動詞の三基本形、過去人称変化、現在完了、非人称の es 第13回 第9課と10課 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要。				
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 57			担当者	梁川 英俊
	フランス語 I (A)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業スケジュール	第 1 回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2 回 Leçon 1 第 3 回 Leçon 1 第 4 回 Leçon 2 第 5 回 Leçon 2 第 6 回 Leçon 3 第 7 回 Leçon 3 第 8 回 Leçon 4 第 9 回 Leçon 4 第 10 回 Leçon 5 第 11 回 Leçon 5 第 12 回 Leçon 6 第 13 回 Leçon 6 第 14 回 Leçon 7 第 15 回 Leçon 7				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 58			担当者	梁川 英俊
	フランス語 I (B)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業スケジュール	第 1回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2回 Leçon 1 第 3回 Leçon 1 第 4回 Leçon 2 第 5回 Leçon 2 第 6回 Leçon 3 第 7回 Leçon 3 第 8回 Leçon 4 第 9回 Leçon 4 第 10回 Leçon 5 第 11回 Leçon 5 第 12回 Leçon 6 第 13回 Leçon 6 第 14回 Leçon 7 第 15回 Leçon 7				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +小テスト (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 59		担当者	梁川 英俊	
	フランス語Ⅱ (A)		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業スケジュール	第 1回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2回 Leçon 7 第 3回 Leçon 7 第 4回 Leçon 8 第 5回 Leçon 8 第 6回 Leçon 9 第 7回 Leçon 9 第 8回 Leçon 10 第 9回 Leçon 10 第 10回 Leçon 11 第 11回 Leçon 11 第 12回 Leçon 12 第 13回 Leçon 12 第 14回 Leçon 13 第 15回 Leçon 13				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +小テスト (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 60			担当者	梁川 英俊
	フランス語Ⅱ (B)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業スケジュール	第 1回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2回 Leçon 7 第 3回 Leçon 7 第 4回 Leçon 8 第 5回 Leçon 8 第 6回 Leçon 9 第 7回 Leçon 9 第 8回 Leçon 10 第 9回 Leçon 10 第 10回 Leçon 11 第 11回 Leçon 11 第 12回 Leçon 12 第 13回 Leçon 12 第 14回 Leçon 13 第 15回 Leçon 13				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +小テスト (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 61			担当者	楊 虹
	中国語 I (A)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語に親しむ。</p> <p>【概要】この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 12 課』 同学社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 12 課』 同学社 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第 2 回 発音 (1)：単母音と声調の導入，練習 第 3 回 発音 (2)：複母音の導入，練習 第 4 回 発音 (3)：子音の導入，練習 第 5 回 発音 (4)：子音の練習，発音のまとめ 第 6 回 動詞是の使い方 第 7 回 姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方 第 8 回 これまでの復習 第 9 回 動詞文の導入と練習 第 10 回 動詞文の練習，疑問文の練習 第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習 第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回 全体の復習 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	小テスト (40%) と中国に関する発表またはレポート (10%)，口頭試験 (50%) で評価する				
実務経験について	なし				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 62			担当者	中筋 健吉
	中国語 I (B)			授業外対応	メールで対応します。 k9553471@kadai.jp
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします(中国語検定準4級, 漢語水平考試HSK筆記1級程度)</p>				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』(総合編)(金星堂)				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』(総合編)(金星堂)</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨN 中国語について 教科書の使い方</p> <p>第 2回 発音篇(1) 中国語ローマ字(ピンイン)の習得</p> <p>第 3回 発音篇(2) 中国語ローマ字(ピンイン)の習得</p> <p>第 4回 発音篇復習</p> <p>第 5回 第1課(1) 自己紹介:1.人称代詞 2.“是 shì”構文</p> <p>第 6回 第1課(2) 身分や出身について話す</p> <p>第 7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第 8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第 9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進捗その他の状況によって変更することもあります。</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

(注) 日本語日本文学専攻・英語英米文学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 63			担当者	寺西 光輝
	中国語 I (C)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の基礎知識を学び、現代中国の文化事情について触れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインと声調の読み方をマスターし、簡単な挨拶と自己紹介ができることを目的とします。</p> <p>授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。</p> <p>【到達目標】・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。</p> <p>・自分や他人を簡単に紹介することができる。日常生活でよく使われる簡単な表現を理解し、用いることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、発音導入</p> <p>第 2回 発音編 1：単母音と声調について学ぶ</p> <p>第 3回 発音編 2：複合母音について学ぶ</p> <p>第 4回 発音編 3：鼻母音、子音について学ぶ</p> <p>第 5回 発音編 4：発音編まとめ</p> <p>第 6回 第 1 課：「是」の文型と疑問詞「哪里」について学ぶ</p> <p>第 7回 第 1 課：自己紹介と簡単な挨拶について学ぶ</p> <p>第 8回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について学ぶ</p> <p>第 9回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について復習する</p> <p>第 10回 第 3 課：数字の表現について学ぶ</p> <p>第 11回 第 3 課：「有/没有」の文型について学ぶ</p> <p>第 12回 第 4 課：時間と曜日の表現について学ぶ</p> <p>第 13回 第 4 課：時刻の表現について学ぶ</p> <p>第 14回 中国ドラマ鑑賞＋リスニング課題</p> <p>第 15回 前期授業内容のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の単語と文法事項を予習する。授業後にはチェックシートとクイズレットを使い単語と会話表現を復習する。				
成績評価の方法	授業への取り組み(50%)＋定期試験(50%)				
実務経験について	なし				

(注) 経済専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 64			担当者	陳 躍
	中国語 I (D)			授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最適な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>				
学生の主体的・対話的な学び	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社				
授業 スケジュール	第 1 回 我是上海人 第 2 回 我叫王平 第 3 回 这里是南京路 第 4 回 现在几点了？ 第 5 回 今天是星期几？ 第 6 回 你家有几口人？ 第 7 回 没关系 (映画) 第 8 回 香港的夏天热吗？ (映画) 第 9 回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第 10 回 我经常散步 第 11 回 牌价是多少？ 第 12 回 汉语难不难？ 第 13 回 我没吃蒜 第 14 回 我想去超市 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

(注) 英語英文学専攻、経済専攻、経営情報専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 65			担当者	三木 夏華
	中国語 I (E)			授業外対応	授業終了時に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース。</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする</p> <p>【到達目標】2 ピンイン、声調記号が読めるようになる。 1 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 発音、声調</p> <p>第 2回 発音、声調</p> <p>第 3回 発音、声調</p> <p>第 4回 発音、声調</p> <p>第 5回 人称代名詞、名前の言い方</p> <p>第 6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 7回 “的”、“是”について</p> <p>第 8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 9回 動詞述語文、連動文</p> <p>第 10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 11回 指示代名詞、“有”構文</p> <p>第 12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 13回 “在”構文、方位詞</p> <p>第 14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	前回学習した課を CD を聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。				
成績評価の方法	期末試験 50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況 50%				
実務経験について	あり。鹿児島大学法文学部教授。				

(注) 経営情報専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 66			担当者	中筋 健吉
	中国語 I (F)			授業外対応	メールで対応します。 k9553471@kadai.jp
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします(中国語検定準4級, 漢語水平考試HSK筆記1級程度)</p>				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』(総合編)(金星堂)				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』(総合編)(金星堂)</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨN 中国語について 教科書の使い方</p> <p>第 2回 発音篇(1) 中国語ローマ字(ピンイン)の習得</p> <p>第 3回 発音篇(2) 中国語ローマ字(ピンイン)の習得</p> <p>第 4回 発音篇復習</p> <p>第 5回 第1課(1) 自己紹介:1.人称代詞 2.“是 shì”構文</p> <p>第 6回 第1課(2) 身分や出身について話す</p> <p>第 7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第 8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第 9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進捗その他の状況によって変更することもあります。</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 67			担当者	土肥 克己
	中国語 I (G)			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 声調と母音</p> <p>第3回 子音</p> <p>第4回 発音のまとめ</p> <p>第5回 表記の規則</p> <p>第6回 クラス名簿, あいさつ (1)</p> <p>第7回 クラス名簿, あいさつ (2)</p> <p>第8回 数字, お金, 時刻 (1)</p> <p>第9回 数字, お金, 時刻 (2)</p> <p>第10回 数字, お金, 時刻 (3)</p> <p>第11回 簡単な動詞の文 (1)</p> <p>第12回 簡単な動詞の文 (2)</p> <p>第13回 意思表示, 誘いかけ (1)</p> <p>第14回 意思表示, 誘いかけ (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	作文と小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 68			担当者	寺西 光輝
	中国語 I (H)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の基礎知識を学び、現代中国の文化事情について触れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインと声調の読み方をマスターし、簡単な挨拶と自己紹介ができることを目的とします。</p> <p>授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。</p> <p>【到達目標】・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。</p> <p>・自分や他人を簡単に紹介することができる。日常生活でよく使われる簡単な表現を理解し、用いることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、発音導入</p> <p>第 2回 発音編 1：単母音と声調について学ぶ</p> <p>第 3回 発音編 2：複合母音について学ぶ</p> <p>第 4回 発音編 3：鼻母音、子音について学ぶ</p> <p>第 5回 発音編 4：発音編まとめ</p> <p>第 6回 第 1 課：「是」の文型と疑問詞「哪里」について学ぶ</p> <p>第 7回 第 1 課：自己紹介と簡単な挨拶について学ぶ</p> <p>第 8回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について学ぶ</p> <p>第 9回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について復習する</p> <p>第 10回 第 3 課：数字の表現について学ぶ</p> <p>第 11回 第 3 課：「有/没有」の文型について学ぶ</p> <p>第 12回 第 4 課：時間と曜日の表現について学ぶ</p> <p>第 13回 第 4 課：時刻の表現について学ぶ</p> <p>第 14回 中国ドラマ鑑賞＋リスニング課題</p> <p>第 15回 前期授業内容のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の単語と文法事項を予習する。授業後にはチェックシートとクイズレットを使い単語と会話表現を復習する。				
成績評価の方法	授業への取り組み(50%)＋定期試験(50%)				
実務経験について	なし				

(注) 食物栄養専攻、生活科学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 69			担当者	楊 虹
	中国語Ⅱ（A）			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語13課』同学社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語13課』同学社 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第2回 動詞「有」の導入，練習 第3回 動詞「在」の導入，練習 第4回 「有」と「在」の応用練習 第5回 年月日，曜日の言い方の練習 第6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習 第7回 助動詞を使った文の応用練習 第8回 復習（1）これまでの内容の復習 第9回 形容詞述語文の導入，練習 第10回 時刻の言い方の導入，練習 第11回 形容詞述語文の応用練習 第12回 お金の言い方の導入，練習 第13回 量詞の導入，練習 第14回 復習（2）：全体の復習 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	小テスト（40%）と中国に関するレポート（10%），口頭試験（50%）で評価する				
実務経験について	なし				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 70			担当者	中筋 健吉
	中国語Ⅱ（B）			授業外対応	メールで対応します。 k9553471@kadai.jp
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします（中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度）</p>				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 第6課（1） 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第2回 第6課（2） 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第3回 第7課（1） 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第4回 第7課（2） 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第5回 第8課（1） 場所や存在について話す</p> <p>第6回 第8課（2） 場所や存在について話す</p> <p>第7回 第9課（1） 交通手段や希望について話す</p> <p>第8回 第9課（2） 交通手段や希望について話す</p> <p>第9回 第10課（1） 動作の発生や進行について話す</p> <p>第10回 第10課（2） 動作の発生や進行について話す</p> <p>第11回 第11課（1） 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第12回 第11課（2） 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第13回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語</p> <p>第14回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語</p> <p>第15回 授業まとめ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>				
授業外学習（予習・復習）	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

(注) 日本語日本文学専攻・英語英米文学専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 71		担当者	孟 卓然	
	中国語Ⅱ（C）		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の簡単な日常会話を学び、現代中国の文化事情について触れる</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインを正確に読み、また、趣味や経験などについて日常会話ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度（後期終了時の目標）</p>				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、前期の復習</p> <p>第2回 第5課：形容詞について学ぶ</p> <p>第3回 第5課：程度副詞について学ぶ</p> <p>第4回 第6課：趣味や好みについての表現を学ぶ</p> <p>第5回 第6課：「会」、「能」の文型について学ぶ</p> <p>第6回 第7課：家族、人間関係、職業についての表現を学ぶ</p> <p>第7回 第7課：量詞について学ぶ</p> <p>第8回 第8課：場所、方向についての表現を学ぶ</p> <p>第9回 第8課：「在」の文型について学ぶ</p> <p>第10回 第9課：交通手段についての表現を学ぶ</p> <p>第11回 第9課：交通手段についての表現を復習する</p> <p>第12回 第10課：動作の発生と進行についての表現を学ぶ</p> <p>第13回 第10課：動作の発生と進行についての表現を復習する</p> <p>第14回 中国映画鑑賞＋リスニング課題</p> <p>第15回 後期授業内容のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。				
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + 定期試験 (50%)				
実務経験について	なし				

(注) 英語英文学専攻、経済専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 72			担当者	陳 躍
	中国語Ⅱ（D）			授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち，70分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>				
学生の主体的・対話的な学び	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社				
授業 スケジュール	第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过，听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了（中間テスト） 第8回 我不会打日文（映画） 第9回 你知道号码吗？（映画） 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢？ 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间？ 第14回 我说得不好 第15回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

(注) 英語英文学専攻、経済専攻、経営情報専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 73			担当者	三木 夏華
	中国語Ⅱ（E）			授業外対応	授業終了時に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース。</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方</p> <p>第2回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第3回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方</p> <p>第4回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第5回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 時刻の言い方、語気助詞の“了”</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 時間の長さの言い方、完了の“了”</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 前置詞、助動詞1</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。				
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%				
実務経験について	あり。鹿児島大学法文学部教授。				

(注) 経営情報専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 74			担当者	中筋 健吉
	中国語Ⅱ（F）			授業外対応	メールで対応します。 k9553472@kadai.jp
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします（中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度）</p>				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第5回 第8課(1) 場所や存在について話す</p> <p>第6回 第8課(2) 場所や存在について話す</p> <p>第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す</p> <p>第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す</p> <p>第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第13回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語</p> <p>第14回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語</p> <p>第15回 授業まとめ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（41%）但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

(注) 経済専攻，経営情報専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 75			担当者	土肥 克己
	中国語Ⅱ（G）			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違いやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 連続動作, 意向確認 (1)</p> <p>第2回 連続動作, 意向確認 (2)</p> <p>第3回 なに? どこ? だれ? (1)</p> <p>第4回 なに? どこ? だれ? (2)</p> <p>第5回 モノ (1)</p> <p>第6回 モノ (2)</p> <p>第7回 場所 (1)</p> <p>第8回 場所 (2)</p> <p>第9回 状態 (1)</p> <p>第10回 状態 (2)</p> <p>第11回 態度, ある瞬間 (1)</p> <p>第12回 態度, ある瞬間 (2)</p> <p>第13回 1年間の復習 (1)</p> <p>第14回 1年間の復習 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	作文と小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 76			担当者	孟 卓然
	中国語Ⅱ（H）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の簡単な日常会話を学び、現代中国の文化事情について触れる</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインを正確に読み、また、趣味や経験などについて日常会話ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度（後期終了時の目標）</p>				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーションCEFR A1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーションCEFR A1 レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、前期の復習</p> <p>第2回 第5課：形容詞について学ぶ</p> <p>第3回 第5課：程度副詞について学ぶ</p> <p>第4回 第6課：趣味や好みについての表現を学ぶ</p> <p>第5回 第6課：「会」、「能」の文型について学ぶ</p> <p>第6回 第7課：家族、人間関係、職業についての表現を学ぶ</p> <p>第7回 第7課：量詞について学ぶ</p> <p>第8回 第8課：場所、方向についての表現を学ぶ</p> <p>第9回 第8課：「在」の文型について学ぶ</p> <p>第10回 第9課：交通手段についての表現を学ぶ</p> <p>第11回 第9課：交通手段についての表現を復習する</p> <p>第12回 第10課：動作の発生と進行についての表現を学ぶ</p> <p>第13回 第10課：動作の発生と進行についての表現を復習する</p> <p>第14回 中国映画鑑賞＋リスニング課題</p> <p>第15回 後期授業内容のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。				
成績評価の方法	授業への取り組み（50%）＋定期試験（50%）				
実務経験について	なし				

(注) 食物栄養専攻、生活科学専攻

(注) 20～25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 77			担当者	楊 虹
	中国語Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の体系を把握する。</p> <p>【概要】この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】中国語検定試験4級を取得することを目指すと同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布する。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習</p> <p>第 2回 年齢の言い方と尋ね方</p> <p>第 3回 前置詞「在」（～で～をする）の導入，練習</p> <p>第 4回 完了の「了」の導入，練習</p> <p>第 5回 時間量の言い方の導入，練習</p> <p>第 6回 文末詞「了」の導入，練習</p> <p>第 7回 場所の言い方の導入，練習</p> <p>第 8回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入，練習</p> <p>第 9回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。</p> <p>第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成</p> <p>第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正</p> <p>第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定，台本を読む練習</p> <p>第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習，通し稽古</p> <p>第14回 中国語で寸劇⑤：発表</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習（予習・復習）	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	小テスト（50%），口頭試験（50%）で評価する				
実務経験について	なし				

(注) 生活科学科を除く

授業科目	授業番号： 78			担当者	土肥 克己
	中国語Ⅳ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で本を読む</p> <p>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に予習・復習してから受講してください。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 発音の復習 (1) 第 3回 発音の復習 (2) 第 4回 発音の復習 (3) 第 5回 発音の復習 (4) 第 6回 講読 (1) 第 7回 講読 (2) 第 8回 講読 (3) 第 9回 講読 (4) 第 10回 講読 (5) 第 11回 講読 (6) 第 12回 講読 (7) 第 13回 講読 (8) 第 14回 講読 (9) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

(注) 生活科学科を除く

授業科目	授業番号： 79			担当者	浜田 幸史
	スポーツ・健康論			授業外対応	随時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯を通じて自他のスポーツライフや健康を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康的な生活を主体的に実践できるようにするため、運動やスポーツが健康に与える効果、運動やスポーツの行い方、健康課題への対応、社会生活における健康の保持増進等について理解したり、考察したりする。</p> <p>【到達目標】個人・社会生活におけるスポーツと健康について理解し、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとする態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、スポーツとは</p> <p>第 2回 健康とは</p> <p>第 3回 スポーツ・健康の現状</p> <p>第 4回 レポート①発表・提出、運動・スポーツの実践計画</p> <p>第 5回 ストレスと健康</p> <p>第 6回 飲酒・喫煙・薬物乱用と健康</p> <p>第 7回 スポーツ・健康とビジネス</p> <p>第 8回 レポート②発表・提出、振り返り・まとめ</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び提出課題、筆記試験（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修

食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5 回

授業科目	授業番号： 80		担当者	浜田 幸史	
	生涯スポーツ実習（A）		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修,日本語日本文学専攻

授業科目	授業番号： 81		担当者	浜田 幸史	
	生涯スポーツ実習 (B)		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況 (80%)、レポート (20%) 等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，英語英文学専攻

授業科目	授業番号： 82			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（C）			授業外対応	随時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，食物栄養専攻

授業科目	授業番号： 83		担当者	浜田 幸史	
	生涯スポーツ実習 (D)		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況 (80%)、レポート (20%) 等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，生活科学専攻

授業科目	授業番号： 84			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（E）			授業外対応	随時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経済専攻

授業科目	授業番号： 85		担当者	小松 友哉	
	生涯スポーツ実習（E）		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経済専攻

授業科目	授業番号： 86			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（F）			授業外対応	随時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経営情報専攻

授業科目	授業番号： 87		担当者	小松 友哉	
	生涯スポーツ実習（F）		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経営情報専攻

授業科目	授業番号： 88		担当者	上野 祐子	
	情報リテラシー I (A)		授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)、USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう (ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集、段落罫線)、課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)、情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力、オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照)、ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ)、課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	授業番号： 89		担当者	上野 祐子	
	情報リテラシー I (B)		授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)、USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう (ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集、段落罫線)、課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)、情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力、オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照)、ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ)、課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	授業番号： 90			担当者	上野 祐子
	情報リテラシー I (C)			授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)、USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう (ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集、段落罫線)、課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)、情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力、オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照)、ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ)、課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

(注) 食物栄養専攻

授業科目	授業番号： 91		担当者	上野 祐子	
	情報リテラシー I (D)		授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成）、USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう（文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存）</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう（ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線）</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう（表の作成と編集、段落罫線）、課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能（配布プリント使用）</p> <p>第 7 回 Web による情報検索（配布プリント使用）、情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索（配布プリント使用）、課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成）</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう（データの入力、オートフィル）</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう（表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照）、ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう（グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ）、課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ（Word・Excel・情報検索）</p>				
授業外学習（予習・復習）	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 教職必修、生活科学専攻

授業科目	授業番号： 92			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (E)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作</p> <p>第 2回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用</p> <p>第 4回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について</p> <p>第 12回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

(注) 経済専攻

授業科目	授業番号： 93			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (F)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作</p> <p>第 2回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用</p> <p>第 4回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について</p> <p>第 12回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

(注) 経営情報専攻

授業科目	授業番号： 94			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (A)			授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し，必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために，日商 PC 検定 3級問題集を用いて，ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット，情報セキュリティを守る技術等，ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて，簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習，レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう（テーマ，スライドの作成，図形，SmartArt グラフィック）</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう（画面切り替え効果，アニメーション，印刷），課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう（Excel と Word の連携，Word 文書を PowerPoint で利用）</p> <p>第 6 回 Word 練習問題（主にグラフィック機能）（配布プリント使用）</p> <p>第 7 回 Word 練習問題（主に表中心）（配布プリント使用）</p> <p>第 8 回 Word 練習問題（配布プリント使用），課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう（データベース機能）</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題（主に関数中心）（配布プリント使用）</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題（主にグラフ中心）（配布プリント使用），課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題（配布プリント使用）</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習（配布プリント使用）</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2（配布プリント使用）</p> <p>第 15 回 まとめ（PowerPoint・Word・Excel）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア，中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	授業番号： 95		担当者	上野 祐子	
	情報リテラシーⅡ (B)		授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷), 課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

(注) 教職必修, 英語英文学専攻

授業科目	授業番号： 96		担当者	上野 祐子	
	情報リテラシーⅡ (C)		授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷), 課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

(注) 食物栄養専攻

授業科目	授業番号： 97			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (D)			授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し，必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために，日商 PC 検定 3級問題集を用いて，ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット，情報セキュリティを守る技術等，ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて，簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習，レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう（テーマ，スライドの作成，図形，SmartArt グラフィック）</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう（画面切り替え効果，アニメーション，印刷），課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう（Excel と Word の連携，Word 文書を PowerPoint で利用）</p> <p>第 6 回 Word 練習問題（主にグラフィック機能）（配布プリント使用）</p> <p>第 7 回 Word 練習問題（主に表中心）（配布プリント使用）</p> <p>第 8 回 Word 練習問題（配布プリント使用），課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう（データベース機能）</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題（主に関数中心）（配布プリント使用）</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題（主にグラフ中心）（配布プリント使用），課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題（配布プリント使用）</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習（配布プリント使用）</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2（配布プリント使用）</p> <p>第 15 回 まとめ（PowerPoint・Word・Excel）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア，中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 教職必修，生活科学専攻

授業科目	授業番号： 98			担当者	刈屋 美枝子
	情報リテラシーⅡ (E)			授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、開講前に、パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 2 専攻を合わせて中級 (経験者：E) と初級 (初心者：F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール (学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、さらに応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信				
授業 スケジュール	第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習アプリの紹介 第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第 3 回 Windows パソコンでのファイルの基本操作 第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への要望など) 第 5 回 パソコンによる効率的な検索と AI の活用 第 6 回 インターネット検索の基本 第 1 回課題 第 7 回 画像ファイルの扱い方 (1) さまざまなアプリの選択 第 8 回 画像ファイルの扱い方 (2) 画像の加工・編集 第 9 回 WORD での画像の活用 (1) 第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題 第 11 回 ファイルの応用的処理 圧縮・展開 第 12 回 ファイルの応用的処理 その他のユーティリティソフト 第 13 回 クラウドを利用したデータのやり取り パソコンとスマートフォンの連携 第 14 回 インターネットの活用 クラウドの応用 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	2 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。				
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価				
実務経験について	本学パソコン講師 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者				

授業科目	授業番号： 99			担当者	刈屋 美枝子
	情報リテラシーⅡ (F)			授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、開講前に、パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 3 専攻を合わせて中級 (経験者：E) と初級 (初心者：F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール (学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信				
授業 スケジュール	第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習アプリの紹介 第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第 3 回 Windows パソコンでのファイルの基本操作 第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への要望など) 第 5 回 パソコンによる効率的な検索と AI の活用 第 6 回 インターネット検索の基本 第 2 回課題 第 7 回 画像ファイルの扱い方 (1) さまざまなアプリの選択 第 8 回 画像ファイルの扱い方 (2) 画像の加工・編集 第 9 回 WORD での画像の活用 (1) 第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題 第 11 回 ファイルの応用的処理 圧縮・展開 第 12 回 ファイルの応用的処理 その他のユーティリティソフト 第 13 回 クラウドを利用したデータのやり取り パソコンとスマートフォンの連携 第 14 回 インターネットの活用 クラウドの応用 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	2 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。				
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価				
実務経験について	本学パソコン講師 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者				